

図2 (A, B) 皮質下白質 threads の AT 8 免疫電顕. Bar = 1 μ m, 15nm 金コロイド.

優位のタウの蓄積と考えられた. 類似の症例に大原らの報告例がある (Ohara S. Neurosci Lett

2002; 330: 84-88).

特別講演：脳アミロイド・アンギオパチーによる脳出血

武田 茂樹*, 生田 房弘**, 新井 弘之***

* 新潟脳外科病院ブレインリサーチセンター病理

** 同 ブレインリサーチセンター

*** 同 脳外科

脳アミロイド・アンギオパチー (CAA) は大脳皮質や髄膜の血管に多発し, 大脳皮質のアミロイド沈着血管が破れて皮質下血腫を形成することや, 二次性のくも膜下出血を高頻度に起こすことなどが指摘されてきた.

私たちは CAA に伴う最初の出血は, 脳実質内ではなく, くも膜下腔に起こっている可能性について報告してきた. 以下に私たちが得た所見と私たちの考えを述べる.

1989 年から 1999 年末までの当施設の連続 160

剖検例 (39 才～95 才) の前頭葉, 側頭葉, 後頭葉を検討し, 53 例 (51 才～95 才) に CAA を認めた. 出血を伴わない 47 例では, AA が髄膜血管に限局するのが 12 例, 皮質と髄膜の血管に認められるのが 35 例で, 脳実質に限局する例は認められなかった. また, AA は大脳皮質よりも髄膜血管, 特に脳溝内に多発していた. “皮質下血腫” は 6 例に認められ, ここでも AA は髄膜血管, 特に脳溝内血管に多発していた. 全例に新鮮な多発性 “皮質下血腫” を認め, 脳溝内にも血腫が認め

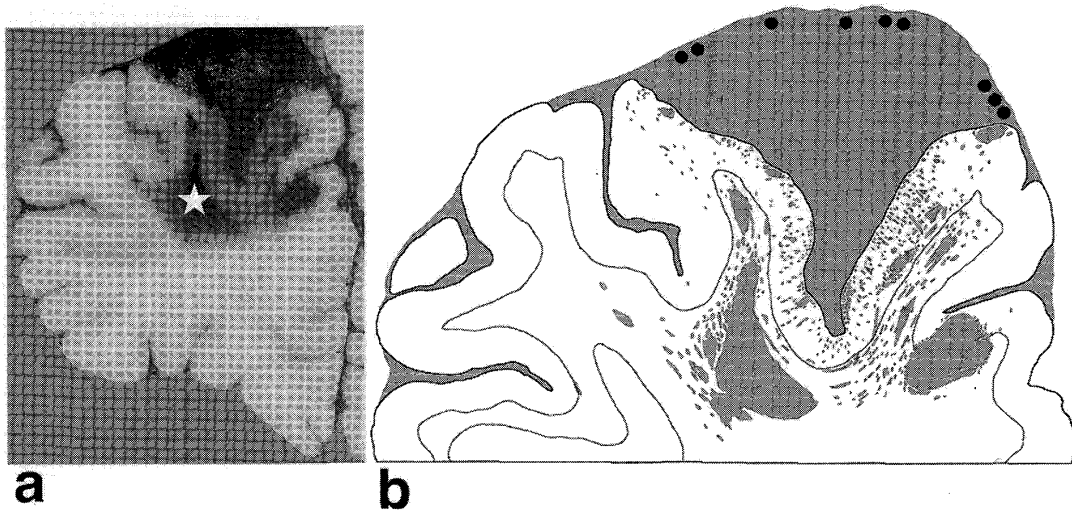


図1 71才女性

- a 上前頭溝に厚いくも膜下血腫がみられる。周囲皮質は出血性壊死に陥っている。
 b 黒のドットは破裂したアミロイド沈着血管。

られた. synaptophysin による免疫染色では, これらの血腫は脳溝壁を構成する, 新鮮な梗塞に陥っている大脳皮質, 特に脳溝深部皮質で全て連続していた. 1例では脳実質内血腫と連続性を認めない脳溝内血腫を認めた (図 1a, b). 脳溝の血腫内には, AA を伴う破裂血管が多数認められた. 破裂血管にフィブリノイド変性や動脈瘤様構造はみられなかった. 脳実質の血腫内には破裂血管は認められなかった.

これらの所見から以下のことが示唆された. ① CAA はまず髄膜血管に起こる. ② CAA に伴う出血は, 複数の髄膜血管が破れてくも膜下腔, 特に脳溝内にまず最初に起こる. ③次いで, この脳溝内血腫周囲の大脳皮質に壊死を生じる. ④脳溝内の血液は壊死性となった周囲大脳皮質の深部を破壊して脳実質内に進展し, 二次性の“皮質下血腫”を形成する.